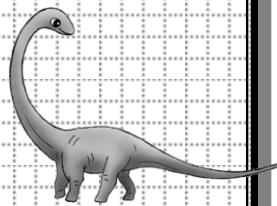


2015年1月

ち ねん がつ
地 質 一 No. 10

けんぱくものしりシート

こつしつ し ちょうるい じょうわんこつ
骨質歯鳥類の上腕骨



こつしつ し ちょうるい じょうわんこつ
骨質歯鳥類の上腕骨

- **骨質歯鳥目** シュウドドントオルニス科【シュウド(擬) + ドント(歯) + オルニス(鳥)】
- **学名** : *Pseudodontornithidae* gen. et sp. indet.
- **発掘地** : 岩手県奥州市前沢区生母の新第三紀前期鮮新世 竜の口層
- ※1981(昭和56)年に発見されたマエサワクジラ(体長5m)を調査した時に同じ地層から偶然発見された。
- **特徴** : 上腕骨の長さは約66cmで内側は空洞になっている。
嘴には、骨でできた突起状の歯がある。

も むし
持ち主はだれ?

いま やく まんねんまえ せいそく おおがた うみどり じょうわんこつ かた
今から約500万年前に生息していた大型の海鳥の上腕骨(肩からヒジにかけての部分)です。翼を広げると5m以上の大きさでした。上腕骨の内側は空洞になっていて、飛行する鳥類の多くに見られる特徴の1つです。少しでも軽い体で空を飛べるように長い時間をかけて進化してきました。さらに詳しく調査をすると、日本ではまだ確認されていなかった「骨質歯鳥類」のものであることがわかりました。

骨質歯鳥類ってどんな鳥？



そらと空を飛べたの？

驚くべきことに、この大きな海鳥は岩手の空を飛んでいたのである。

化石を含む全ての鳥類の中で、空を飛ぶ限界の大さきは体長5~6mとされている。

歯がある！？

嘴に歯があるが、嘴と歯の間に歯茎のようなものはない。エサを落とさないための滑り止めの役割をしていたと考えられる。

エサは？

現在、地球上にいる鳥たちと同じように魚やイカなどを丸のみしていたと考えられる。

—*—*—*—*—*—*—*—*—*—*—*—

約500万年前のようす

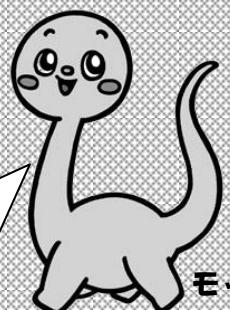
大昔の北上山地と奥羽山脈の間にには、浅くて広い海が広がっていました。上腕骨が発見された竜の口層からは、サンゴやサメの歯・浅い海にすむ巻き貝の化石なども見つかっています。約500万年前の岩手県は、大型の動物たちも暮らすことができるくらいとても豊かな大自然が広がっていたのです。



参考にした本 『岩手県立博物館研究報告第3号』 岩手県立博物館 1985年

古仙台湾の古地理図
細い線…現在の海岸線
太い線…約500万年前の海岸線

らいげつ
来月（2月）の
けんぱくものしりシートは
考古-10だよ！
おたのしみに！



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>